

いちのせき

一関市(岩手県)

一関市長

勝部 かつべ

修 おさむ

わが

国際リニアコライダー(ILC)を 基軸にしたまちづくり

一関市とILC

一関市は、岩手県の最南端、東北のほぼ中央に位置し、盛岡市と宮城県仙台市の中間にあります。古くから交通の要衝として栄え、岩手県南、宮城県北エリアの中核として役割を担ってきました。

私が一関市長に就任したのは平成21年10月ですが、それ以前は岩手県の職員でした。

岩手県職員時代の平成5年、新たに設置された科学技術振興室に



一関市役所庁舎に掲げるILC国内候補地決定横断幕

において担当し、20年後に一関市長として再びかわることとなったプロジェクトが「国際リニアコライダー(ILC)」計画です。

本市を含むこの地域(北上高地)が、「国際リニアコライダー(ILC)」計画の国内候補地として選定されたことは、ご存じでしょうか？

国際リニアコライダー(ILC)とは…

国際リニアコライダー(ILC)とは、International Linear Colliderの頭文字をとってILCといい、Linearは直線、Colliderは衝突器、という意味です。私が県の担当者だったころは、JLC(Japan Linear Collider)と呼ばれていました。

地下トンネル内に全長約30km(将来的には50km)の直線の加速器をつくり、物質を構成する最小単

位である素粒子(電子と陽電子)を両端から発射し、光速まで加速し衝突させることにより、宇宙誕生から1兆分の1秒後の状態をつくり出す実験を行う大規模研究施設のことです。

この実験により、ビックバン(宇宙誕生直後の状態)とほぼ同じ高エネルギーの反応をつくり出し、宇宙創成の謎、時間と空間の謎、質量の謎などの解明に迫ります。

世界にただ一つ建設されるILCは、世界的な経費の分担について平成30年までの間に政府間の協議が行われ、その最終決定をもって、平成30年頃には建設に着手し、平成39年頃の稼働を目指しています。

ILCによる経済波及効果

ILCは、世界最先端の技術が

結集されており、未知の素粒子発見や物理理論の究明に役立つだけでなく、施設を構成する先端技術が産業全般に技術革新を促すものと期待されています。

施設の建設費は、10年間で約8300億円と見込まれ、建設と運用を通じた経済波及効果は全国ベースで約4兆円、雇用の創出は約25万人を想定しており(東北ILC推進協議会作成)、「ILCを核とした東北の将来ビジョン」より、その効果は、東北にとどまらず、全国、世界にも波及するものと考えられています。

また、施設の運用・研究が始まると、世界中から数千人もの研究者や技術者が集まるほか、材料工学、遺伝子工学、医療、創薬、計量計測器、情報通信、建築土木などの分野で技術の革新がもたらされます。

ILCの国内候補地

ILC計画が国際プロジェクトとして検討されると同時に、建設候補地の検討も進められてきました。



勝部市長と地元中学生とのILC看板製作

ILCの実験は、物質を構成する最小単位である素粒子、電子と陽電子を正確に衝突させる必要があるため、人工振動が少なく、活断層がない硬い岩盤が30kmから50kmにもわたり必要となります。

本市が位置する岩手県南部から宮城県北部にかけての北上高地の地下には、硬い「花崗岩」の岩盤が南北に延びて存在し、ILC建設にとつて、とても良い条件がそろっている世界屈指の場所なのです。

そのような中、平成25年8月23日、国内研究者で組織する「ILC立地評価会議」は、本市を含む北上高地がILCの建設候補地として最適であるという決定を行いました。

ILCを一関発展の基軸に

この決定を受け、本市ではただちにILC推進室を設置し、ILC実現を見据え「ILCを基軸としたまちづくり」に取り組みんでいます。

ILC計画は、建設段階で10年、運用段階(第1期・31km)で20年、そして第2期計画(50kmへ延伸)20年の、およそ半世紀にわたる実験が見込まれています。

そのため、特に次代を担う人材の育成に重点を置き、中学生による高エネルギー加速器研究機構などへの最先端科学体験研修、英語だけで生活する宿泊研修、少人数で気軽に科学について語り合う「いちのせきサイエンスカフェ」などを実施し、子どもたちの物理学への意識や国際感覚を高くんでいます。

また、私自ら、自治会や学校を訪問し、ILCについて講演し、ILCの価値や意義、地域が大きく変わり、さまざまな産業が興ることなどについて話をしています。

それぞれの地区でも、自治会などによるILCをテーマとした花壇設置や、ILCを題材とした寸劇、ILC建設予定地となる地元の中学生によるILC歓迎看板の作成、小中高校生によるILCポスターコンクールの実施、市内企業の若手社員たちによるILCによるまちづくりの提言など、市民によるさまざまな取り組みも活発に

行われ、ILC実現への期待の高まりを実感しています。

ILC実現に向けて

私はこれまで、長年にわたりILCにかかわってきましたが、ILCの実現は、今を生きる私たちに課せられた大きな使命だと思っています。

そして、ILCが実現すれば、

この地域は世界遺産「平泉」ともに世界に誇れる2つの大きな宝物がある地域となります。

私は、この地域を世界の人々から親しみを持たれる地域、世界の人々から信頼される地域となるよう、同時に、次代を担う子どもたちが夢と希望と誇りを持って活躍できる地域を目指して、ILC実現に取り組みでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 1256・25km²
- ◆ 人口 12万4052人
- ◆ 世帯数 4万6138世帯

〔将来都市像〕みつけよう育てよう郷土の宝 いのち輝く一関

〔まちの特徴〕岩手県の南端、北上川の中流に位置し、国立公園栗駒山をはじめ、一関温泉郷など自然に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年9月20日、一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村が合併し、新一関



一関市長 勝部 修



市が誕生。平成23年9月26日、藤沢町を編入合併

〔特産品〕ひとめぼれ、いわて南牛、なす、曲りねぎ、南部一郎かぼちゃ、しいたけ、りんご、もち料理、東山和紙
〔観光〕国立公園栗駒山、天然記念物 巖美溪、日本百景尻鼻溪、一関温泉郷、国立自然公園室根山、骨寺村荘園遺跡
〔イベント〕全国地ビールフェスティバルin一関、一関・平泉バルーンフェスティバル、全国「ご当地もちサミット」in一関、一関国際ハーフマラソン大会、大東大原水かけ祭り

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

果実・温泉・歴史に彩られた 日本一桃源郷のまち ふえふき

歴史と俳句のまち

笛吹市は、東京から100km圏、甲府盆地の東部に位置します。笛吹川が形成した盆地底部の平坦部と、教科書でも紹介された扇状地が織りなす地形で構成されています。古来より人々の居住に適した地域で、時代ごとに多数の

遺跡が発掘され、特に縄文期の积迦堂遺跡は、装飾性を極めた大型土器と多数の土偶で知られています。時代が下って、東日本最大級の前方後円墳など古墳時代の遺跡が扇状地に点在し、白鳳期の寺院、奈良期の国分寺などの遺跡に触れることができます。

現代俳句の巨匠、飯田蛇笏、龍太父子は、旧境川村に生まれ育ち、終生この地にとどまってわが国俳壇をリードされました。父子の居宅「山蘆」を中心に、境川の地は今日でも俳句愛好家にとっての聖地であり、毎年開催される「笛吹市小学生・中学生俳句会」には、3万人を超える児童・生徒からの応募があります。

日本一桃源郷のまち

平坦地から扇状地へと広がる緩

やかな傾斜地には、桃、ぶどう、柿などが植栽され、日本有数の果樹地帯を形成しています。特に桃とぶどうは、生産量日本一を標榜させていただいています。中でも桃は、断然の日本一を自負しており、満開の桃の花が織りなす絶佳の風景はまさに桃源郷にふさわしいことから、平成25年4月10日、「日本一桃源郷」を宣言し、同日を「笛吹市桃源郷の日」と定めたとあります。

ジュシーな生食はもちろんお勧めですが、バツカスの助けを借りたワインも名産の一つ。熱き醸造家たちが丹精込めてつくり上げた芳醇なワインをお楽しみください。山梨県では、日本が世界に誇る日本固有のぶどう品種、甲州種とマスカット・ベリーAでつくられた新酒ワインを「山梨ヌーボー」

と命名し、11月3日を解禁日としました。本市では、その年の新酒を一刻も早く愛好家と味わおうと、日付が変わる午前0時に「ヌーボーde乾杯！カウントダウンパーティー」を開催しています。山梨ヌーボーは、洋食・和食を問わずさまざまな料理とともに楽しめるワインとして親しまれています。お気に入りの一本を探しにワイナリーを巡るのも魅力の一つです。

日本の美味しい桃を世界に

平成26年2月の大雪害では、ビニールハウスの9割が倒壊しましたが、国、県の支援もあり、被災農家の9割が再建に立ち上がっており、本年度中にはすべて再建できるような力で取り組んでいます。生産の大宗を占める露地はまったく問題なく、本年も質量ともに自慢の笛吹の果実を消費者に届けるべく農家の皆さんは頑張っています。国内消費の飽和感に対応し、手取り単価の向上を図るため、今後は高級品需要が見込まれ



奈良時代に建立された長谷寺

る海外市場への展開が重要となっ
てきます。このため、全国の桃産
地が共同して、海外に進出する環
境を整えようと、本年4月、「第1
回全国桃サミットin笛吹」を開催
したところです。日本の桃が世界
市場に向けて飛躍するよう、桃産
地が手を携えて展開するスタート
の場となりました。

国際観光地を目指して

もう一つの基幹産業は観光で
す。半世紀前にぶどう畑の中から
突然噴出した石和・春日居温泉郷
を擁し、団体観光地として栄えて
きました。近年の観光ニーズの変
化を踏まえ、世界文化遺産登録に
よって注目を浴びる富士山観光の
宿泊地に組み込むなど、近隣観光
地との連携を強めることとしてい
ます。東京オリンピック・パリリ
ンピックを控え、外国人観光客の
受け入れに力を入れ、国際観光地
に脱皮できるよう関係者一体と
なって取り組んでまいります。市
名の由来となっている笛吹川の水
辺空間を生かしたまちづくりにも
取り組み始めたところです。「ミ
ズベリング構想」とそれに基づく
まちづくりです。「川中島合戦

国絵巻」に連動した集客能力の高
い施設の整備、伝統の徒歩鶴の積
極的活用、石和温泉花火大会のグ
レードアップなどに向けて具体化
を図ることとしております。本年
度中の完成を目指す石和温泉駅の
駅舎は、一部供用を開始してお
り、皆さまのお越しをお待ちして
おります。

リニア開通を見据えて

夢の超特急リニアモーターカー
の開通は12年後の2027年。既
に42kmの実験線は完成し、試験走
行が行われ、試乗会も予定されて
います。本市は実験線の西の末端
に当たり、今時の言葉で言うところ
の「生リニア」が低速で走行す
るところを眼前に見ることができ
ます。2カ所ある「リニアの見え
る丘」からは、今でもリニアを見
ることはできますが、より利便性
を高めるため整備を進めています
ので、足をお運びいただきたいと
思います。もちろん、12年後を見
据えて、ストローで東京に吸われ
ないようにしなければなりません。
リニア甲府新駅へのアクセス
がよいという利点を生かした地域
づくりが課題です。

結びに

合併11年目を迎え、これまで手
を付けてこなかった多くの課題に
取り組んでいかなければなりません。
特に、旧町村時代に建設され
た公共施設の多くは、老朽化が進
行しており、その見直し、再編は
避けられません。地方創生の大風
をいっばいに受け、長期的視点に
立ち、市民とともにまちづくりを
進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 201.92km²
- ◆ 人口 7万971人
- ◆ 世帯数 2万8406世帯

〔将来都市像〕 みんなで奏でる、にぎ
わい・やすらぎ・きらめきの「ハーモニ
ーまちの特徴」 笛吹川に沿って広がる
「桃源郷」のまち

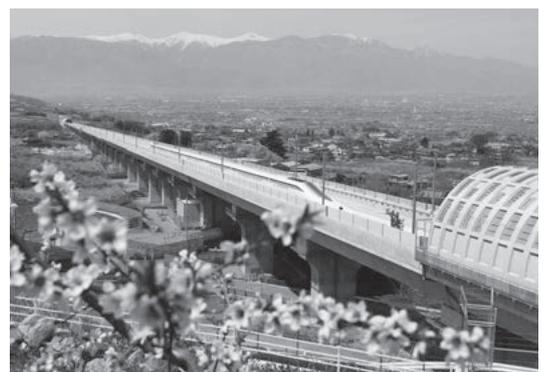
〔市町村合併〕 平成16年10月12日、石
和町、御坂町、一宮町、八代町、春日



笛吹市長
倉嶋清次



居町、境川村の5町1村が合併。平成
18年8月1日に芦川村を編入合併
〔特産品〕 桃、ぶどう、柿、錦鯉、こ
んにやく、ワイン
〔観光〕 石和・春日居温泉郷（1日の
宿泊収容力約1万人）、観光農園（約
200軒）、釈迦堂遺跡博物館
〔イベント〕 笛吹市桃源郷春まつり、
笛吹市桃の里マラソン大会、川中島戦
国合戦絵巻、笛吹川石和鶴飼、石和温
泉花火大会



リニアの見える丘

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

住みごこち一番・可児の実現へ Kプロジェクトが本格始動

はじめに

岐阜県の中南部に位置し愛知県と隣接する可児市は、名古屋市から約30km、名鉄、JR共に1時間以内という地の利を有しています。昭和40年代の後半から名古屋市のベッドタウンとして住宅団地の開発が進み、約3万人の人口が爆発的に増加しました。そして、昭和57年に全国で650番目の市として市制を施行、約30年間で人口が3倍以上に増加した全国有数の人口急増都市です。平成17年の兼山町との合併により10万人都市となり、地域の中核的な役割を果たしています。リーマンショック以降は人口が減少していましたが、約1年前から再び微増に転じています。

少子高齢化へのチャレンジ かに支え愛「Kプロジェクト」

人口減少・少子高齢社会を乗り切るための重点的な施策を総称して「Kプロジェクト」と呼んでいます。Kは可児市、健康、子育て、貢献、経済、観光などの頭文字で、平成26年度に開始した「Kマネー事業」が、プロジェクトの中核の1つです。子育てや高齢者を支えるボランティア活動に対してポイントを付与し、貯まったポイントで地域通貨のKマネーに交換して市内の協力店で使用します。地域の支え合いと市内でお金を循環させる2つの側面を併せ持った仕組みです。協力店がKマネーを換金する際には、社会貢献協力金として額面額の1%をご負担いただき、事業の財源としています。

マイナス10カ月からの子育て支援にも力を注いでいます。妊娠したときから地域・社会とつながり、子育て家庭が孤立することなく、みんなが子育てにかかわっていただけることを目指しています。この取り組みでは、健康づくりや多世代交流によるにぎわいの場も創出するため、その拠点となる施設の建設準備を進めています。

「美濃桃山陶の聖地」を 核にした観光交流への アプローチ

日本を代表する桃山時代の焼き物が、瀬戸ではなく美濃で焼かれていたことを証明し、本市久々利の大萱おおがやに窯を築いて、美濃焼の代名詞である志野を復興・再現させたのが、人間国宝の故荒川豊蔵です。その創作活動や生活を肌で感



「美濃桃山陶の聖地」400年前の窯を再現した故荒川豊蔵の大窯

じられるよう、居宅や工房、大窯などの保存整備をスタートさせます。日本で焼かれた2つの国宝茶碗のうちの1つ「志野茶碗・銘卯花うのはながき」も、この大萱で焼かれたとされています。「美濃桃山陶の聖地」としての観光資源に磨きを掛け、陶芸愛好家など多くのお客様さまをお迎えしたいと考えています。約1000席と300席のホールを有し、市民の市民による市民のための演劇上演や文化活動の拠点となっているのが、文化創造セ



世界最大級のバラ園・花フェスタ記念公園

日までの37日間、世界最大級のバラ園が贈る美しく、ご当地グルメも楽しめる祭典です。交流人口の増加が市の活性化へ、ひいては定住人口の増加へとつながっていくものと考えています。

ンター・アキラです。東京のサントリホールなどと並んでわが国トップレベルの劇場・音楽ホールにも選ばれています。約3カ月前には「世界劇場会議国際フォーラム2015 in 可児」を開催し、世界への第一歩を踏み出しました。このフォーラムは、本年度も開催する予定です。

そして、本年5月16日、「花フェスタ2015ぎふ」が開幕します。会場となる花フェスタ記念公園は、平成7年に開催された花の博覧会「花フェスタ'95ぎふ」の会場を再整備した県営の都市公園です。ナゴヤドーム約17個分の広大な敷地に、約7000品種30000株のバラが咲き誇ります。6月21

日本初 市民・行政一体型FB「かにすき」による可児の魅力発信

街の魅力を発信しながら市民同士の交流の場をつくりたい、特に、若い世代へのアプローチには、幅広い世代に浸透しているSNSの活用が有効であると考えました。中でも、双方向性があり拡散性が高い、実名登録のため信頼性も高いなどの理由から、フェイスブック（FB）を選択しました。市民と行政が一体となったこのFBは、市内のおすすめスポットやおいしい食べ物店、頑張っている人など市民が投稿する楽しい話題と、市からの情報でつくり上げる日本初の取り組みです。平成26年1月の開設以降ファンがどんどん増え、現時点ではいいね！の数が1300を超えています。今では、本市の魅力を双方向で発信する重要な情報ツールの1つとなっています。

おわりに

「住みごこち一番・可児」を選挙公約に掲げ、平成26年11月に2期目のスタートを切りました。今

後、本市に限らず将来を担う年少人口と社会経済を支える生産年齢人口が減少し、地域の社会経済を維持できるのか深刻な事態になることが予測されます。そして、大きな観光地でもなく、工業地帯でもない地方都市にできることは何か。それは、市民が地域に愛着と誇りを持ち、ずっと住み続けていきたいと思えるような仕組みをつくっていくことだと思えます。そ

こで、その仕組みの構築を目指し、さまざまな取り組みをKプロジェクトとして推進しています。私が誇るレベルの高い「市民力」を原動力に、これからも少子高齢化へのチャレンジが続きます。日本三名泉の「下呂温泉」や小京都「飛騨高山」、世界遺産の「白川郷」などへお出掛けの際の中継地として、お立ち寄りいただければ幸いです。

プロフィール

- ◆ 面積 87・57km²
- ◆ 人口 10万814人
- ◆ 世帯数 3万9602世帯

〔将来都市像〕若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造

〔まちの特徴〕志野、織部を代表とする桃山茶陶の発祥の地「美濃桃山陶の聖地」

〔市町村合併〕平成17年5月1日、兼山町を編入合併



可児市長
富田成輝



〔特産品〕美濃桃山陶、ガラス工芸品、里芋、春の七草、大豆、米、生姜、ごぼう、きゅうり、手づくり味噌

〔観光〕花フェスタ記念公園（世界最大級のバラ園）、荒川豊蔵資料館、鳩吹山、湯の華アイランド、三峰温泉

〔イベント〕カタクリまつり、もみじ祭、戦国武者行列若獅子蘭丸、子守神社大祭、白鬚神社流鏝馬祭、久々利八幡神社大祭、可児シテイマラソンin花フェスタ、可児夏まつり

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

進化する自然共生文化都市を 目指して!

自然の恩恵

香美市の景観を見上げれば名峰三嶺を頂に、重畳たる山間からは清流物部川が土佐湾に注ぎ込む、この雄大な自然とともに市民の皆さまが豊かな生活を営んでおります。

農業が盛んで、やつこネギ・ニラ・シヨウガ・菌床しいたけ、中でも、物部のユズ玉は日本一の出荷量を誇り、そのほかにもたくさん農作物が温暖な気候の下で栽培されております。
森林面積は本市の88%を占め、広大な水源かん養機能により私たちは溢れるほどの豊かな水に恵まれ、また新緑や紅葉は誠に色鮮やかであり、観光資源としても活用しております。
代表的なところでは日本三大

鍾乳洞と称される龍河洞や、日本の滝百選に選ばれている轟の滝、紅葉が美しい別府溪谷など素晴らしい自然が四季折々に観られます。

お近くにお越しの際には、ぜひともお立ち寄りください。

共生すること

自然が与えてくれるのは恵みばかりではなく、災害とともに教訓も与えます。



国の天然記念物・史跡に指定されている龍河洞

過去の教訓に学び、来る南海トラフ地震をはじめ、台風や豪雨などの防災・減災対策を講じてこそ、自然と共生が可能となります。

本市では特に、個人住宅耐震化や家具固定、自主防災組織への活動支援といった地域防災力の向上対策、孤立対策としての緊急用ヘリコプター離着陸場や住民の方への災害情報発信のためのデジタル防災行政無線の整備などに集中的に取り組んでおります。

また、災害が発生した際、住民の皆さまができるだけ居住地域の近くで避難生活ができるよう、地域集会所の耐震化事業を開始しており、本市の避難者収容力の拡大により、他市

町村の避難者受け入れも可能となる予定です。

さらには、市北部地域では10年ほど前からニホンジカの異常繁殖が確認され、名峰三嶺直下でも、ニホンジカによる希少植物への食害、さらには樹齢200年を越すような大木もニホンジカの食害により枯れるなど自然林への被害が甚大となっています。この林内の下草への食害影響により、台風などの大雨により山腹崩壊の大きな原因の一つともされています。

この被害を少しでも減少させよう、植生を回復しようと自然保護団体を中心に森林管理署、行政、登山団体などが協力をして、被害が甚大な地点にネット張り、植樹などが実施されています。この活動により、防護ネットを設置した場所では見事に植生が回復しております。
しかし、この広大な自然林をすべて保護することはできないため、この対策のほかに市独自で地

域狩猟者に協力いただき、ニホンジカの個体数を減少する目的で平成21年度から捕獲事業を実施し、6年間で361頭捕獲しています。

捕獲圧を高めている場所では、ネットを張っていない場所でも植生回復の兆候が確認されており、今後も捕獲事業を確実に実施していく必要があります。

豊富な森林資源の活用

国有林を除く大部分を占める民有林の人工林率は75%と高く、当たりの蓄積量は約471m³、県内有数の優良な人工林が形成されています。

しかし、林業は採算性の悪化などによる生産活動の一般的な停滞と労働力の高齢化や後継者不足により間伐、保育などが適正に実施されず、そのため公益的機能が十分発揮できない森林が存在するようになってきています。

このような状況を打開するため、本市では適正な森林管理の基盤となる林道、作業道をはじめとした路網整備、



ニホンジカの食害対策として進める防護ネット設置の様子

高性能林業機械などの導入による生産性の向上および生産コストの低減などを図り、森林組合や林業事業体などの経営基盤の強化と森林管理の担い手の育成、確保に努めております。

また、県下では大型製材工場や木質バイオマス発電施設の本格的稼働を始めており、木材需要は大幅に増えております。国・県の事業を活用した新たなストックヤードの建設、市産材使用木造住宅建設に対する市補助事業などを進めることにより、長く低迷し

てきた市の林業にも少風が吹くうとしています。

進化すること

物部川でつながる山、川、まち

ひとは、香美市の財産であり、それらが響き合い、結びついて美しい生活・文化・産業が生まれてきました。

プロフィール

- ◆ 面積 537・86 km²
- ◆ 人口 2万7139人
- ◆ 世帯数 1万2935世帯

〔将来都市像〕山・川・まち・ひとが躍動し、支え合い、響き合う進化する自然共生文化都市・香美市

〔まちの特徴〕物部川を軸に広がる緑豊かなまちで、山、川、平野を含む変化に富む地形、四季の表情豊かな自然環境に恵まれている

〔市町村合併〕平成18年3月1日に、物部川流域の旧3町村（土佐山田町・香北町・物部村）が合併



香美市長
法光院晶一



〔特産品〕やつこネギ、ニラ、シヨウガ、菌床しいたけ、ユズ玉、土佐打ち刃物、フラフ

〔観光〕龍河洞、香美市立やなせたかし記念館「アンパンマンミュージアム」、べふ峡、鏡野公園、轟の滝、土佐塩の道

〔イベント〕刃物まつり&山田のかかしコンテスト、土佐山田まつり、大川上美良布神社秋季大祭、奥物部湖水祭

この豊富な地域資源を生かし、地域の良さを大切に、市民と一緒になって汗を流しながらみんなで共に進める、よりよいまちづくりを目指してまいります。

香美市は、自然と共生する文化都市として、未来へ可能性と夢を耕しながら、さらに進化していきます。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。